8月10日は「道の日」

道路ニュース

THE ROAD NEWS No. 604
令和２年３月号

発行所　全国道路利用者会議
〒100-0013
東京都千代田区霞ヶ関3-3-1
尚友会館6階
電話　03-3501-5611㈹
発行人　小林　勉
定価　20円（会員の購読料は会費に含む）

特殊車両通行手続の合理化へ

「道路法等の一部を改正する法律案」閣議決定

大型車両の通行に係る手続の合理化、特定車両停留施設及び自動運行補助施設の道路の附属物への追加、歩行者利便増進道路の指定制度の創設等の措置を講ずるとともに、頻発化する自然災害への対応を強化するため、地方公共団体が管理する道路の災害復旧等の国土交通大臣による権限代行制度の拡充の措置を講ずる「道路法等の一部を改正する法律案」が、令和２年２月４日に閣議決定された。

１．背景

近年の大型車両による物流需要の増大に伴い、特殊車両（車両の重量等が一定限度を超過する車両）の通行許可手続の長期化など事業者負担が増大しており、通行手続の合理化への対応が課題となっている。また、バスタプロジェクト等新たな交通結節点づくりの推進、地域を豊かにする歩行者中心の道路空間の構築、自動運転による移動サービスへの対応などによる道路の効果的な利用を推進する必要があるほか、激甚、頻発化する自然災害時において、道路の迅速な災害復旧等を行い、道路の安全性の向上を図ることが急務となっている。

２．概要

（１）物流生産性の向上のための特殊車両の新たな通行制度の創設

特殊車両のうち国土交通大臣による登録を受けたものを通行させようとする者は、国土交通大臣による確認を求め、回答を受けた通行経路に従って通行する場合、許可を受けることなく通行できること等を規定

（２）民間と連携した新たな交通結節点づくりの推進

交通混雑の緩和や物流の円滑化のため、バス、タクシー、トラック等の事業者専用の停留施設を道路附属物として位置付けること、当該施設の運営については、コンセッション（公共施設等運営権）制度を活用することができること等を規定

（３）地域を豊かにする歩行者中心の道路空間の構築

賑わいのある道路空間を構築するための道路を歩行者利便増進道路として指定し、当該道路では、歩行者が安心・快適に通行・滞留できる空間の構築を可能とすること、無電柱化に対する国と地方公共団体による無利子貸付けを可能とすること等を規定

（４）自動運転を補助する施設の道路空間への整備

自動運転車の運行を補助する施設を道路附属物・占用物件として位置付けること、当該施設の整備に対する国と地方公共団体による無利子貸付けを可能とすること等を規定

（５）国による地方管理道路の災害復旧等を代行できる制度の拡充

災害が発生した場合において、地方公共団体からの要請に基づき、国土交通大臣が道路啓開・災害復旧を代行できる道路の対象を拡大すること等を規定

復興道路

復興・創生へ

令和2年2月24日（日）15時30分　開通

三陸沿岸道路
気仙沼中央IC～気仙沼港IC

～三陸道路が気仙沼港につながる！～

国土交通省が整備を進めてきた復興道路・三陸沿岸道路（気仙沼中央IC～気仙沼港IC）が、令和2年2月24日（日）に開通した。

【開通日】

令和2年2月24日（日）15時30分

【開通区間】

三陸沿岸道路（気仙沼中央IC～気仙沼港IC）／約1.7キロ

【開通による整備効果】

◇地域産業の振興を支援

気仙沼市の水産業・水産加工業は東日本大震災により大きな被害を受けたものの、生産量は震災前の約7割まで回復した。

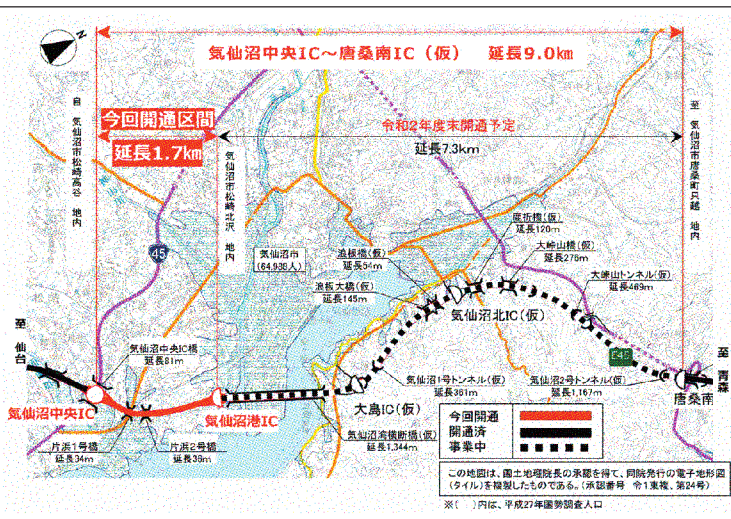
水産加工品は三陸沿岸道路を利用し、仙台、関東・関西方面に出荷している。

今回の開通により、気仙沼港と三陸沿岸道路が直結し、時間短縮などによる物流効率化で、地域産業のさらなる振興を支援する。

◇強靭で信頼性の高い道路ネットワークを形成

気仙沼市は、震災時に津波により市街地の多くの範囲が浸水し、道路が寸断されるなど甚大な被害が発生した。

今回の開通区間を含む三陸沿岸道路の整備により、津波浸水区域を回避し、更に大規模災害時には、5箇所のICからの支援活動が可能となり、強靭で信頼性の高い道路ネットワークを形成する。



復興道路

令和2年3月1日（日）15時　開通

三陸沿岸道路
久慈北IC～侍浜IC

～復興道路が北へ大きく延伸！～

国土交通省が整備を進めてきた復興道路・三陸沿岸道路（久慈北IC～侍浜IC）／延長7.4キロが、令和2年3月1日（日）に開通した。

【開通日】

令和2年3月1日（日）15時

【開通区間】

三陸沿岸道路（久慈北IC～侍浜IC）／延長7.4キロ

【開通による整備効果】

◇地域産業の振興を支援

久慈市の製造品出荷額のうち、約半数が食料品製造業で、水産加工品などに使用するサバ類は八戸市から年間約1，000トン輸送し、久慈市内で加工され年間を通して八戸市へ出荷している。

今回の開通区間を含めた三陸沿岸道路の整備による輸送効率化で、鮮度保持や生産性の向上など、地域産業の振興を支援する。

◇広域周遊観光の拡大を支援

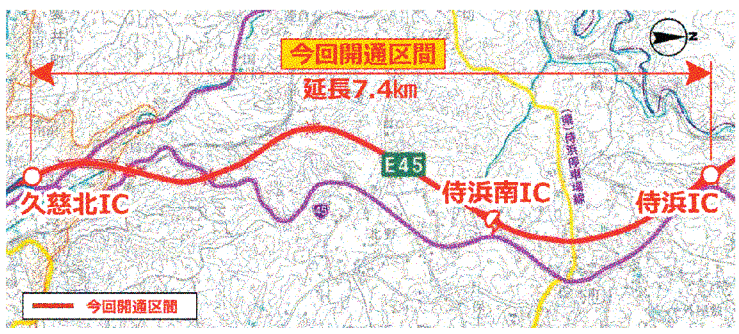
三陸沿岸地域は、三陸復興国立公園（H25・5指定）、三陸ジオパーク（H25・9認定）のほか、久慈地区周辺のドラマのロケーション地など、魅力的な観光資源が数多く存在している。

今回の開通区間を含めた三陸沿岸道路の整備による観光拠点へのアクセス性向上で、沿岸地域の広域周遊観光拡大を支援する。

◇迅速で安定した救急医療活動を支援

久慈消防署管内の洋野消防署における救急搬送の約5割が第三次医療施設の県立久慈病院に搬送しているが、搬送に時間を要するほか、国道45号では急勾配・急カーブによる横揺れなど、搬送時に問題が発生している。

今回の開通により、搬送時間の短縮や、搬送時の走行性向上で、迅速で安定した救急医療活動を支援する。



令和2年3月22日（日）16時　開通予定

高速神奈川7号横浜北西線
横浜青葉JCT～横浜港北JCT

～横浜北西線の開通でもっと便利に快適に！～

横浜市と首都高速道路株式会社が共同で整備をすすめてきた高速神奈川7号横浜北西線（横浜青葉ＪＣＴ～横浜港北ＪＣＴ）が令和2年3月22日（日）に開通する。

横浜北西線は、平成29年3月に開通した横浜北線と直結する路線として、東名高速道路と第三京浜道路を結ぶ、延長約7・1キロの自動車専用道路である。横浜北西線が開通すると、横浜北線と一体となり、東名高速道路から横浜港北までが直結され、横浜市北西部と横浜都心・湾岸エリアとの連絡強化等が図られる。

【開通日】

令和２年３月22日（日）16時

【開通区間】

高速神奈川7号横浜北西線（横浜青葉ＪＣＴ～横浜港北ＪＣＴ）／約7・1キロ

【開通による整備効果】

◇国際競争力の強化

横浜北線と一体となって、東名高速道路と新横浜都心（陸）、横浜港（海）、および羽田空港（空）が直結してネットワークが強化され、国際競争力の向上が期待される。

◇災害時等の道路ネットワークの信頼性向上

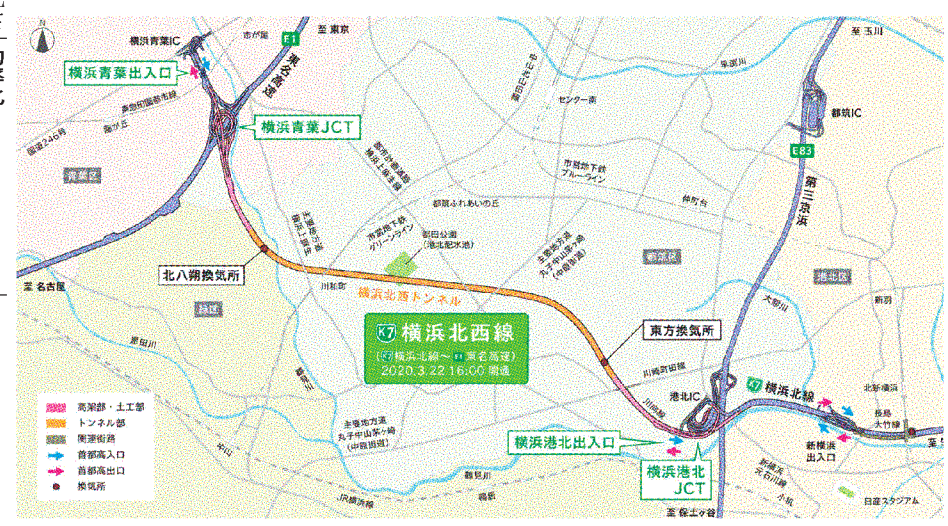
災害時における道路ネットワークの信頼性が向上し、全国から市内各地への救援や物資の輸送ルートが多重化され、災害に対する備えが充実する。また、初期救急医療体制となる災害拠点病院へのアクセス性が向上し、救急搬送を支援する。

◇アクセス性の向上・輸送効率化

東名高速道路から横浜港への所要時間が短縮し、東名高速道路から横浜港へのアクセス性が大幅に向上して物流の効率化が図られ、横浜港の発展および経済活性化が期待される。

◇保土ヶ谷バイパス等の交通渋滞および沿線地域の交通環境の改善

保土ヶ谷バイパス等の並行道路および横浜北西線沿線地域からの交通転換が図られ、交通渋滞や生活環境の改善が期待される。



令和元年度
「道路ふれあい月間」
推進標語

『この道は　世界につづく　ゆめとびら』

“道路総合システムサービス”企業

NICHIREKI
ニチレキ株式会社
東京都千代田区九段北4-3-29　TEL 03(3265)1511代表